

特別支援学級に在籍する児童への「交流及び共同学習」の現状と課題に関する調査研究

—特別支援学級担任と交流学級担任へのアンケート調査を通して—

○須之内 由起 吉松 靖文

(松山市立さくら小学校) (愛媛大学教育学部)

共同学習 自閉症・情緒障害特別支援学級 主体的な学び

(目的)

中教審(2012)では、共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のために交流及び共同学習(以下交流・共同学習)の必要性を提言している。交流・共同学習については、文部科学省(2005)で豊かな人間性をはぐくむことを目的とする交流の側面と、教科等のねらいの達成を目的とする共同学習の側面が示されている。しかし、稲荷ら(2014)によると特別支援学級担任と交流学級の担任の双方ともに共同学習の側面では、あまり成果を感じておらず、意識も低いということが示唆された。

また、次期学習指導要領では、児童の主体的な学びが重視され、「生きる力」を育むことをねらいとしているが、交流・共同学習において、児童自身が交流・共同学習を希望したり、目的をもって取り組んだりしているか等、児童が学びの主体となっているかどうかについては疑問が残る。

本研究では、交流・共同学習における共同学習の側面を特別支援学級担任や交流学級担任が理解しているか、目標設定や評価には特別支援学級の児童が関わっているか、目標の達成が客観的に判断できる方法で評価されているかについて実態を明らかにすることを目的とする。

(方法)

対象 2017年3月に、A市において自閉症・情緒障害特別支援学級担任と交流学級担任を対象に、自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍している児童(215名)に関するアンケート調査を行った。

手続き アンケートは、Googleフォーム及び郵送にて行った。質問項目は、小野ら(2015)を参考に作成し、対象児の学年、交流・共同学習を行っている教科等、教科等の目標設定の状況、児童との目標共有と評価方法の現状について回答を求めた。

(結果)

回収率 自閉症・情緒障害特別支援学級担任 56.3%(121名)、有効回答率 53.5%(115名)であり、交流学級担任 30.2%(65名)、有効回答率 24.7%(53名)であった。

共同学習に対する認知について 交流・共同学習に教科等のねらいを達成することを目的とする共同学習の側面があることを知っているかについては、図1のとおり、特別支援学級、交流学級ともに、高い割合で知っていた。

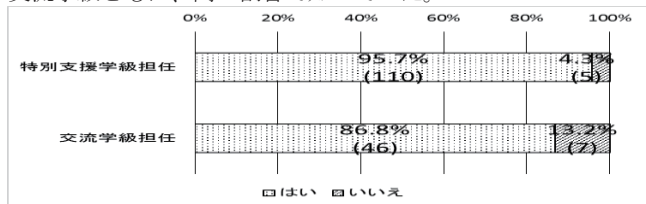


図1. 共同学習の側面について知っているか

目標、評価について 交流・共同学習における目標の設定をだれが行っているかについては、図2のとおり、特別支援学級、交流学級ともに、教員のみで行っている割合が高かった。評価をだれが行っているかについても、図3のとおり、特別支援学級、交流学級ともに教員のみで行っている割合が高かった。

交流・共同学習での教科等の目標の確認を行っているかについては、図4のとおり、特別支援学級、交流学級ともに単元ごとに行っている割合が高かった。評価の方法については、図5のとおり、子どもに聞いたり、様子を観察したりといった教員による主観的な評価が高かった。児童と共に評価するにあたり、数値によって評価するといった客観的指標の使用

は少なく、ルーブリック評価などの評価基準を用いた評価を行っている教員はいなかった。

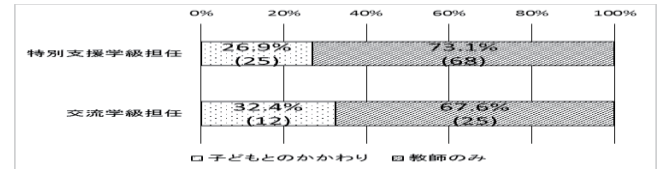


図2. 目標をだれが決められているか

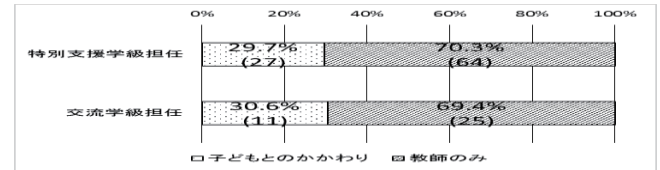


図3. 評価をだれが行っているか

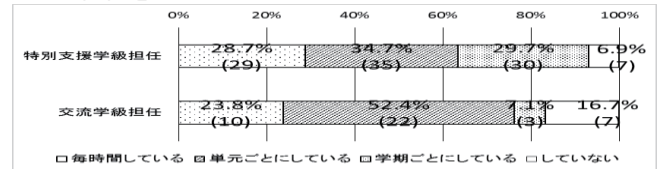


図4. 目標の確認を行っているか

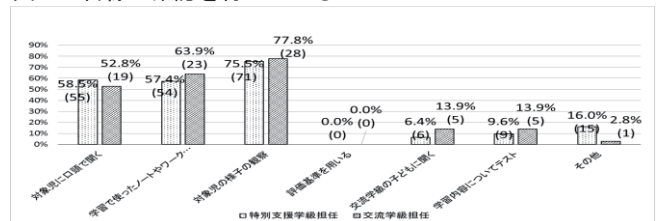


図5. どのように評価を行っているか

(考察)

特別支援学級、交流学級ともに共同学習の側面については、ほぼ理解されていた。しかし、学びの主体者である児童が目標の設定や評価に関わっている割合は低く、教員だけで進められている場合が多いことが明らかとなった。事前に目標の確認を毎時間行っている割合も低かった。目標の中身も、「仲よく」「楽しく」「落ち着いて」といった客観的に評価しにくいものが多く、共同学習としてのねらいを達成するための目標としては、不十分なものが多かった。次期学習指導要領に示される主体的・対話的で深い学びにつながる交流・共同学習を行うためには、児童を学びの主体として、児童と教員が具体的な目標及び評価を共有することが必要であろう。その際、ルーブリック評価など客観的に児童と教員が共に評価できる基準を用いる必要があるだろう。今後は、児童を学びの主体とした目標の設定や評価基準を取り入れた評価を児童と教員が共有する交流・共同学習を実践することで、その効果と意義を明らかにすることが課題である。

(文献)

稲荷邦仁・蒲池真一・信藤昭子・客野美穂・宮本祥恵(2014) 交流及び共同学習における教員間の連携の在り方に関する研究—特別支援学級と通常の学級の連携に関する実態調査の分析を通して—愛媛県総合教育センター
 小野智弘・児玉かおり・日野文貴(2015) 特別支援学級の生徒との交流及び共同学習に対する中学生の意識—定期的な交流及び共同学習を通して—宮崎大学教育文化学部附属教育協働開発センター研究紀要、23、13-25
 (SUNOUCHI Yuki, YOSHIMATSU Yasufumi)